

夢をかなえる eスポーツ

さく:しみず たくと



ある日、作業療法士は障害者支援施設に入所しているアキコさんの車椅子を修理していました。

アキコさんは脳性麻痺で生まれつき体を思うように動かさません。話すことに時間がかかるので、普段は無口です。

そんな、アキコさんが作業療法士が子供と一緒にTVゲームの映画を観に行ったことを話すと、目を輝かせながら「いいなー」と言いました。



不思議に思った作業療法士は
TVゲームについて深く聞きました。

アキコさんの声は聞き取りづらく、何度も
聞き返してしまいましたが

「知ってる」

「好き」

「弟がやった」

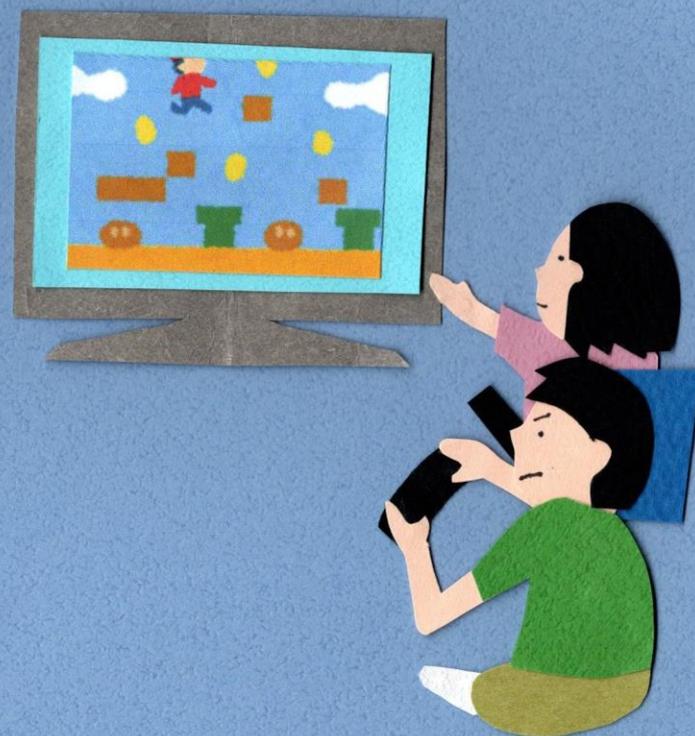
と話してくれました。



20年以上前、
アキコさんは家族と一緒に
暮らしていました。

弟はTVゲームが好きで
毎日ゲームをしていました。

ゲームができないアキコさんは
ずっと
その様子を後ろから見ていました。



「アキコさん、ゲームやってみますか？」

「やる！！」

すぐにアキコさんのゲームの支援が決まりました。

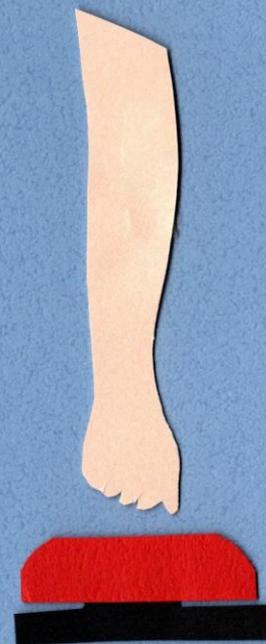


アキコさんは
小さなコントローラーを持つことができません。

そのため、作業療法士はこぶしで押せる
大きなスイッチを準備しました。

「せーの、アキコさん押して」
カチッ！

「今度は長く押して」
カチッ！！



いよいよ本番です。

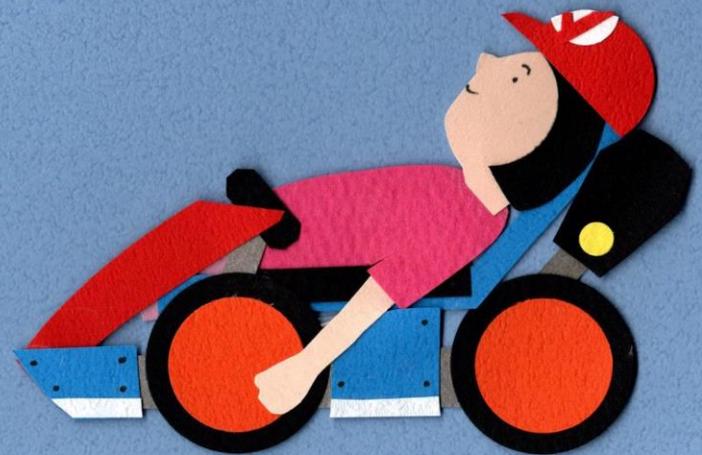
作業療法士は
大きなスクリーンとゲーム機、
ゲーム機とスイッチをつなぐコネクター、
大きなスイッチを準備しました。



「アキコさん、赤いスイッチ押して」
カチッ！
「ほら、進んだ、進んだ！」

「今度は緑のスイッチ押して」
カチッ！！
「攻撃だー」

アキコさんは大興奮です。



1か月後、弟が面会に来ました。

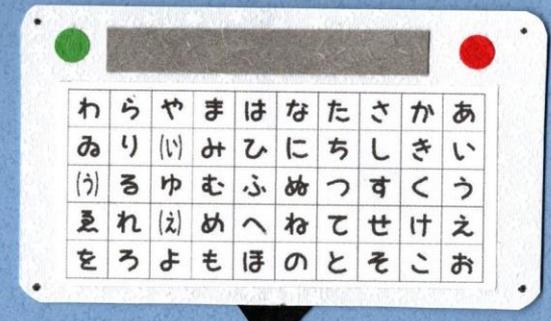
アキコさんは弟と一緒に
ゲームを楽しみました。

ゲームをしている時の2人は昔のままでしたが
今はお互いライバル同士です。



しばらくして、アキコさんはずっと嫌がっていた
コミュニケーション機器の
練習をするようになりました。

使うスイッチはゲーム機と一緒にです。



「やりたいことを入力してください」

カチッ。「え」

カチッ、カチッ。「い」

カチッ、カチッ、カチッ。「が」

「よし、今度は映画を観に行こう！！」

